

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は一部に回復の動きが残っているもののおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

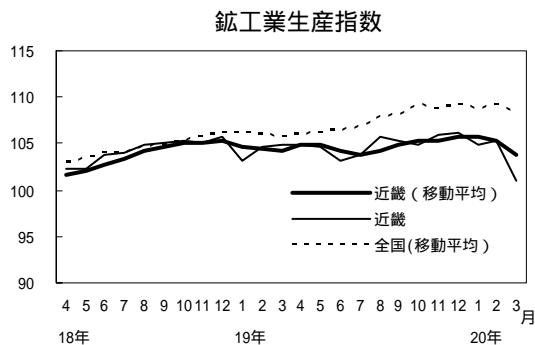
前回調査からの主要変更点

なし。

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、ガスタービンやボイラー等が不調だったことから減少している。化学は、油脂製品・界面活性剤等が不調だったことから減少している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池等が好調だったことからおおむね横ばいで推移している。食料品・たばこは、清酒が好調だったことから増加している。電子部品・デバイス、アクティブ型液晶素子が携帯電話向けやパソコン向けに好調だったが、携帯電話や薄型テレビ向けのコンデンサが足下では弱い動きとなっていることから減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	15.0	6.0	3.8	3.4	2.9
化学	12.8	1.3	0.7	2.1	1.3
電気機械	10.1	0.4	0.7	4.3	2.0
食料品・たばこ	8.1	1.3	4.1	4.8	11.7
電子部品・デバイス	7.9	10.4	8.4	5.9	1.9
鉱工業	100.0	0.7	1.9	1.3	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

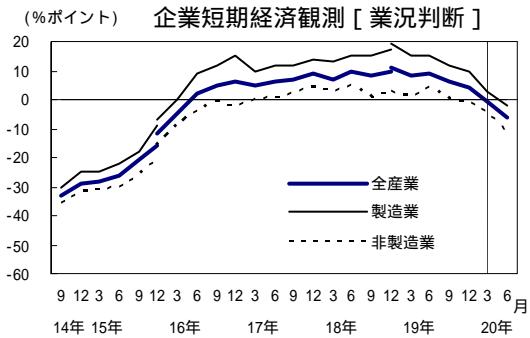
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 季節調整値。近畿の最新月は速報値。

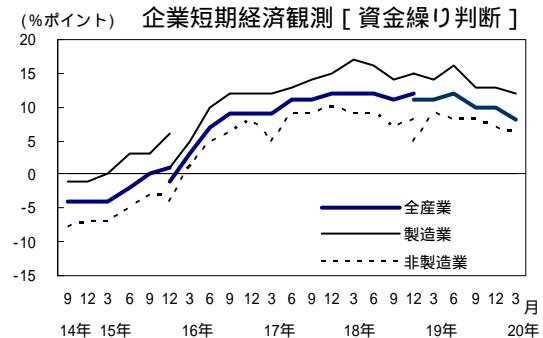
2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

3. 近畿は平成12年基準、全国は平成17年基準。

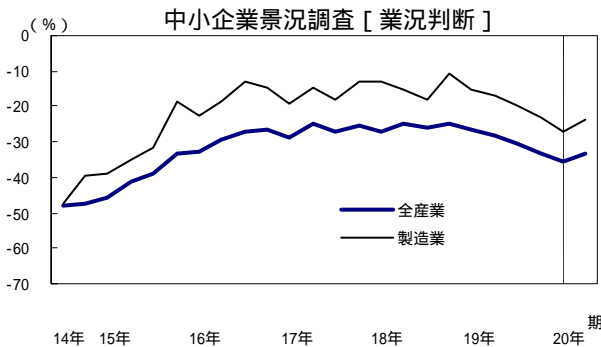
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

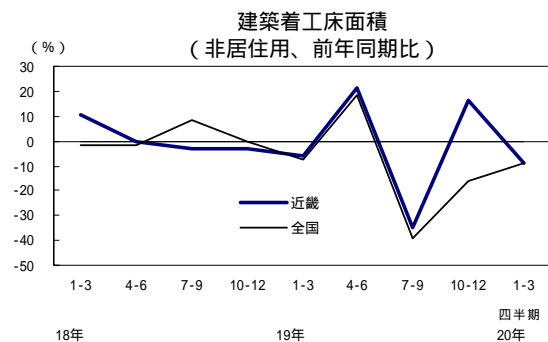
「大手建設会社の下請でマンションの内装工事を行っている業者では、建築確認の遅れによって大きな打撃を受けている(金融業)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績見込み	20年度見込
全産業	17.3( 1.6)	0.4
製造業	13.2( 1.5)	4.0
非製造業	22.0( 1.7)	5.1

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

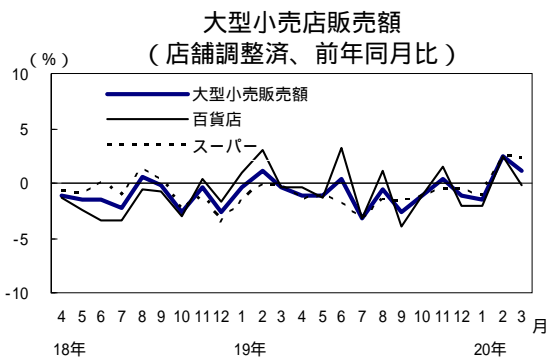
(1) 個人消費は一部に回復の動きが残っているもののおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りの福袋・クリアランスが好調だったものの、気温が低かったことにより春物衣料が不調、また、株安による影響等により、宝石・貴金属のほか、特選衣料などの高額品が苦戦したことから前年を下回った。2月はうるう年効果により売上高が押し上げられるとともに、一部店の紳士服売場の増床等により衣料品が好調だったことから、前年を上回った。3月は、家具、その他の商品等が前年を下回ったものの、飲食料品が好調だった。また、昨年より日曜日が1日多かったこともあり、2か月連続で前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、近畿地区の4月の売上高は、前年同月比で3.1%減となっている。スーパーは、気温が低く推移したことや食品の安全問題が発生したことから国産野菜や精肉等が好調で、全体では前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

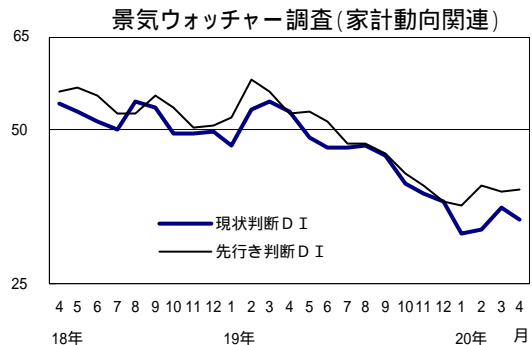
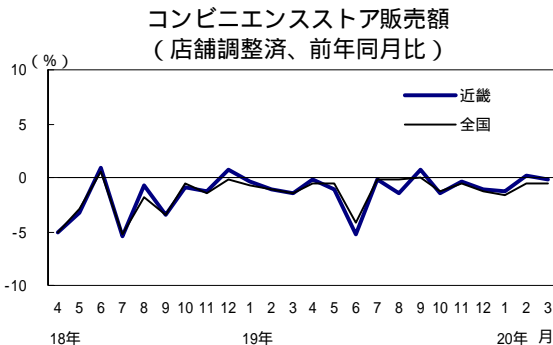
「宿泊は、月上旬の花見客の動きは例年よりも好調であったが、下旬はほとんど動きがない。また、ビジネス客の動きも急に鈍っているほか、歓送迎会などの個人客の動きが悪くなっている。さらに、レストランでは高価格帯の客層は安定している一方、低価格帯では客が急減している(都市型ホテル)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	0.6	2.2	0.7	0.5
百貨店	0.5	2.2	0.7	0.1
スーパー	1.5	2.2	0.7	1.0
コンビニ	2.3	0.3	1.0	0.5
景気ウォッチャー	49.7	46.9	39.7	34.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

